



# 喜多登

## 七夕と相撲

今月七日は七夕ですが、古来、この日は相撲が行われる日でもありました。

『日本書紀』の垂仁天皇七年七月七日に、「当麻村(奈良県葛城市当麻)に当麻蹴速という力自慢の勇士がおり、敵なしと言われたが、出雲国(島根県)から招請された野見宿禰という勇士と七月七日に角力(相撲)をしたところ、野見宿禰が圧勝した」という記述があり、これが相撲の初見とされています。(神代の建御雷神、建御名方神の力比べを除く) 聖武天皇の天平六年(七三四)には、全国から相撲人を集めて、七月七日に宮中で相撲をとったという「相撲節会(すまいのせちえ)」の記録も残っている事から、史料的にも比較的古い時代から七夕の日に相撲が執り行われてきた事は間違いないようです。

そんな最初の力士である野見宿禰は、後に土師氏の姓を頂き、さらに平安時代に入って、子孫が菅原姓を頂きました。つまり当宮の御祭神でもある天神さまこと菅原道真公は野見宿禰の子孫であり、力士の血をひいておられる事になります。この故事から、後代になっても、横網免許を発行する相撲司家は菅原家から輩出されるのが慣わしでした。

現代の相撲は、七夕の日に執り行う古式は無くなり、スポーツや興業の面が強くなっています。江戸時代には社寺の復興や修理の為の勧進(寄付)の場でもありました。相撲は日本文化の根底を支えてきた、まさに縁の下の力持ちといえるのかもしれない。

## 御旅社七夕祭のご案内

茶屋町の御旅社では本年も左記の通り七夕祭を斎行致します。

日時 平成二十九年七月六日〜七日

両日とも午後四時〜午後十時まで

内容 短冊奉納(各色一枚百円)

場所 大阪市北区茶屋町十二番五号御旅社

※雨天でも斎行いたします。

## 遣梅式

本年も七月二十四日午前十一時より、当宮と大阪天満宮が天神祭を通じて縁のある神事、「遣梅式」を斎行致します。

この神事は、大阪天満宮の天神祭に際して、神霊移御の儀という神事の中で、天神さまの御神霊が乗り移られる梅の枝として、飛梅と並んで天神信仰の霊木として知られる当宮の紅梅の枝を用いる慣わしがあり、大阪天満宮の神童自ら当宮御旅社に参向の上、幣帛を捧げてこれを拝受するという神事です。

この神事は江戸時代まで行われていたようですが、幕末の動乱で神事が行えなくなった事から途絶し、平成二十二年(二〇一〇)に当宮と大阪天満宮との両神社で史料が発見された事から、復活される運びとなり、本年で古儀復興八回目になります。

この神事の前後一時間ほどは、御旅社の御本殿で梅ヶ枝授与の儀の為、誠に申し訳ございませんが、一般のご参拝は階下までとなります事、何とぞご了承下さいませ。

## 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

